

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	神埼市立千代田中学校		
-----	------------	--	--

1 前年度 評価結果の概要	・全体を通じて目標をおおむね達成してきたと考える。 ・目標到達が十分達成できていない項目もあるので、現状分析とともに課題の洗い出しや具体的取組の再検討が必要である。 ・学校内での指導の充実を今後も進めるとともに、学校外との連携を再構築していく必要がある。（保護者や地域、関係団体との連携）		
2 学校教育目標	自他のよさに目を向け、夢に向かって挑戦し、粘り強く学び続ける生徒の育成		
3 本年度の重点目標	(1) 絆づくり： ・出番、役割、承認のある学級経営、学年経営 ・「居場所づくり」と「絆づくり」を通した不登校の未然防止 ・生徒主体の生徒会活動の推進 ・あいさつ運動の充実 ・「生命尊重」、「思いやり」、「規範意識」の育成 (2) 授業づくり： ・学習習慣、学習規律の徹底 ・「できた」「わかった」の声が響く授業づくり ・家庭学習につながる授業の工夫 ・特別支援教育の視点に立った個別指導の充実 (3) 支援・体制づくり： ・基本的生活習慣の確立（早寝・早起き・朝ごはん）・体力の向上 ・キャリア教育の推進		
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
主な担当者			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○活躍の場と議論の場を与え、自ら学ぶ意欲を育てる学習指導	○学習に関するアンケートで「めあてを意識して授業を受けている。」、「1時間の授業で1回は発言している」、「授業中わからないところを質問しやすい」と回答した生徒90%以上	・課題解決的な授業を展開するための「めあて」を設定し、課題意識を自分事として捉えることで、主体的に授業に参加するようにする。 ・協同的な学習の場を設定し、対話活動を多く取り入れることで、「わからない」「教えて」と言える授業づくりの改善を図る。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・人権講演会（人権集会）や道徳に関するアンケートの実施 ・「神埼市4か条の誓い」を具現化した道徳授業の実施
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○定期的な生活アンケート調査で、学校生活が楽しい（まあ楽しいを含む）と答える生徒が90%以上	・毎月生活アンケート調査を行い、実態の把握に努める。いじめを覚知した場合には、被害生徒に寄り添い、職員との連携のもと迅速に対応し、早期解決をするとともに継続的な指導をしていく。 ・いじめの対応についての研修を年間に2回は行う。 ・生徒指導部会、生徒指導協議会等を通して職員間で生徒に関する情報を密に共有する。また、学校での生徒の様子を家庭連絡等で保護者に伝えるだけではなく、アンケートの実施や面談等を利用し、可能な限り情報を共有していく。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・全ての教育活動を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・1年生では、夢や目標をもつために職種を知るための時間を設ける。 ・2年生では、「職業体験」を行い、働く大人に接し、一緒に働くことで、働く意義について考えさせる。 ・3年生では、「進路マッピング」を作成し、自分の将来を見つめさせる。
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	②スマホ等を21時になったら保護者に預ける生徒80%以上 ③「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上 ④児童生徒の交通事故（加害・被害問わず）を0（ゼロ）にする ④災害に備え、自宅に防災グッズを準備している生徒70%以上	・スマホ利用のルールや使用時間について、PTAと連携し啓発活動を行う。 ・「弁当の日」を設け、食事づくりの技能と感謝の心を育てる。 ・生徒集会等を利用して啓発活動を行うとともに、学期はじめに登校立ち番指導を行う。 ・各学年において年間1本以上、日本赤十字佐賀県支部等を活用した防災教育を実施する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤・年休取得積極的な推進 ・部活動の活動時間の設定変更 ・業務の効率化に向けた役割分担と内容の見直し
●特別支援教育の充実	○障害のある生徒や支援を必要とする生徒に配慮した教育活動	○「特別支援の視点を踏まえ、生徒への支援を行っている」と回答した職員が90%以上	・支援を必要とする生徒の実態把握をし、個々に合った支援をするための研修や情報共有の場を設定する。全体研修・担当者会・ケース会議等実施。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
主な担当者			
重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○職員間での生徒理解	○活力のある生徒会活動の醸成	○「すみそよいあじ（スリッパ並べ・身だしなみ・無言掃除・四か条の誓い・いじめ防止・挨拶・時間）」を実践した生徒の割合90%	・「すみそよいあじ」と「かせち条約（礼儀作法、文武両道、思いやり、環境保護、規則厳守、健康管理）」を合言葉に各委員会の生徒会活動を充実させる。
○学校・家庭・地域との連携	○学校で学び、家庭でしつけ、地域で育てる協働の推進	○授業参観保護者参加率50%以上 ○学校だより等ホームページ更新月2回実施 ○毎月学年だより、学級だよりからの発信	・保護者や地域住民への情報発信 ・地域・関係機関との連携強化 ・保護者や地域住民が参加しやすい学校行事の設定 ・2年生総合学習テーマを「働く人に学ぶ」とし、保護者に事業所を紹介してもらい、保護者・地域を巻き込みながら、一緒になって子供を社会で育てる意識を高めてもらう機会とする。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育			
5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・		